

ぱーとなーず

vol. 18
2015.7

地域とけんみん信組をつなぐ情報誌

<発行所>
山梨県民信用組合 総合相談センター
〒400-0032 甲府市中央 1 丁目18-6
Tel. 055-233-4176



夏号

山梨県民信用組合は、
地域の事業者の皆様を応援してまいります。



写真は、トマトの出荷が開始された
「明野菜園」にて、農業生産法人
(有)アグリマインド社長 藤巻眞史さん。
(5月11日撮影)

私たちは緑の募金に
参加しています。



私たちは
献血推進キャンペーンを
応援しています。

皆様のベストパートナーをめざして

YKS 山梨県民信用組合

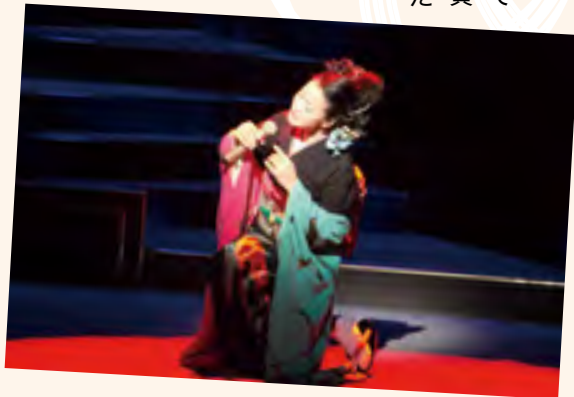
<http://www.yamanashikenmin.shinkumi.jp/>

けんみん信組「年金友の会」定期総会 坂本冬美さんコンサート

山梨県民信用組合では、「けんみん信組年金友の会定期総会」を6月3日、4日に「コナニ文化ホール(甲府市)」で開催しました。お陰さまで、両日合計で6480人の皆さまにご参加いただき、定期総会を盛大に開催することができました。

特に、第2部の「坂本冬美さんコンサート」では、冬美さんの心に響く歌声に酔いしれ、会員の皆さまには素晴らしい時間を過ごしていただきました。

坂本冬美さん
「素晴らしい歌声」を
ありがとうございました。



「年金友の会」 会員の皆様にお礼

山梨県民信用組合
理事長 廣瀬 正文



「年金友の会」の皆さまには、平素より、私も山梨県民信用組合に対しまして、温かいご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る6月3日と4日に「コナニ文化ホール」において開催いたしました「年金友の会定期総会」には、大勢の会員の皆様方のご参加を賜り、総会を盛大に開催することができました。各会長様はじめ会員の皆様方のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

皆様方からお取引をいただいております公的年金につきましては、本年4月の「振込件数」が4万2千件強、「振込金額」は55億6千万円となっております。これは、県内で第2位の規模であり、全国の信用組合全体の中でも振込件数で全国第2位、振込金額で全国第3位の規模を誇っております。このため、当組合は「年金に強い金融機関」というイメージが信用組合業界に築かれております。

このことは、私どもにとって大きな「誇り」であるとともに業務の大きな「支え」となっています。これもひとえに皆様方からの「愛顧」のたまものと心から感謝申し上げる次第であります。

私どもは、皆様方に支えられた実績を糧にして、地域に密着した地元の金融機関として、皆様方のご期待とご信頼にお応えすべく、きめ細かなサービスを提供し続けてまいります。年金に関するご相談はもとより何かお困りの際には、是非お近くの窓口にお気軽にお申し付けいただければ、専門のスタッフが誠心誠意、皆様に対応させていただきますので、引き続き当組合をご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

最後に、暑い日が続いておりますが、適度の水分補給など熱中症対策にもご留意され、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

山梨県民信用組合と 笛吹市社会福祉協議会と

「ふえふき地域見守りネットワーク協定」締結

山梨県民信用組合では、笛吹市の地域見守り活動に協力するため、社会福祉法人笛吹市社会福祉協議会と「ふえふき地域見守りネットワーク協定」を締結しました。このネットワークは、笛吹社協が運営する事業で、市内の事業者や市民の協力により、日常生活や仕事の中で、見守る人・見守られる人を特定しない形で、地域の高齢者の孤立の防止や安否確認などに協力して取り組んでいくものです。

6月18日に八代福祉センターで開催された締結式には、笛吹社協の早河正弘会長ほか役員7名が、当組合からは廣瀬正文理事長、斉藤正理事、石和、御坂、勝沼の各支店長及び関係職員21名が出席し、早河会長と廣瀬理事長が協定書に署名しました。

廣瀬理事長は「地域に根差した信用組合として、地域の皆様との絆を何よりも大切に、今後ともこうした社会活動に積極的に協力していきたい」と挨拶し、締結式に引き続き開催された勉強会では、実際に業務に携わる各支店の職員が、笛吹社協の担当者から詳細な説明を受けました。

この協定に基づき、今後は笛吹社協との緊密な連携のもと、3支店の営業職員等が業務遂行の中で地域見守り活動に積極的に協力していくこととなります。



お取引先企業紹介



農業生産法人(有)アグリマインド
〒408-0204
山梨県北杜市明野町上手13777



培地(右側)と蜂の巣箱(上が黄色い箱)



朝のミーティング



選果場での作業風景



今回は、トマトの出荷が最盛期を迎えた北杜市明野町にある農業生産法人(有)アグリマインド(藤巻眞史 社長)の「明野菜園」を訪れました。

はじめに驚かされたのは、約130m×148m、面積が約2haの温室の大きさ。温室内に入るとさらに外観以上の広さを感じ、まさに巨大な工場そのもの。社長さんのご案内で事務室から向かったのですが、温室に入るには厳重な手順が必要となります。まず、白いウエアを着て衛生帽子を被り、専用スリッパに履き替えます。次にエアージャワースーツで体の埃を吹き飛ばします。それでやっと施設に入れますが、そこはまだ温室とは別の「選果場」で、そこから温室に入るには、温室入口前で消毒液が十分に浸み込んだマットで専用スリッパを消毒し、消毒液が入ったバケツに肘の近くまで両手を浸し、「ハンカチで拭かないように」と注意され、手を自然乾燥



させてから、ようやく温室に入らせてもらえました。半導体工場に入る手順に食品工場に入る手順が加わったような厳重さでした。

「完全空調管理と農薬を出来るだけ使用しないように栽培しているの、一番怖いのは人間が持ち込む病害虫。だから入念に対策を講じている。」とのこと。

温室内は天井も高く、表紙写真の形態の栽培施設は一列が125mの奥行きで、これが等間隔で140m横に86列も並んでいます。中玉トマト8万株を栽培し、栽培方式は天然素材のココ椰子殻培地を使用した養液栽培とのこと。施設や機器、コントロールシステムは全てオランダ製で、「オランダは耕地面積が少なく、こうした栽培方法が昔から発達している、当社では比較検討の結果、施設園芸で最先端のものをオランダから導入した。また、トマトは茎が20m位にも伸びるので、これを一定の高さで横に這わせる方式。収穫位置は腰の高さから上になるように設計されているので、作業もかむ必要がなく楽で効率も良い。」との社長のお話。

温室内では、非常に多数の蜂が受粉作業に休みなく飛び回っていて、ここでの一番の働

き者ではないかと思えるほどでした。培地の隣に等間隔で置かれていた黄色い箱が蜂の住居だとのこと。また壁側の一角に置かれたホワイトボードには作業工程などが貼られ、ちょうど社員の方がミーティングを行っていました。これも工場を思わせる風景でした。

収穫されたトマトは色・形も揃っていて、温室内から選果場にフォークリフトで運び出されます。その通路は分厚いビニールカーテンで遮へいされ、開ける際にはエアカーテンが作動する仕組み。この選果場ではセンサー付の装置でトマトを選別して箱詰め作業が手際よく行われていました。出荷は埼玉県のカゴメ集積センターに送り、そこから首都圏に搬送されスーパーの店頭にも並び、ひとつひとつ食べさせてもらいましたが、筆者の好きな食感と味のトマトでした。

「この地を選んだのは、トマトに適した日本一の日照時間。また、10a当たりの年間生産量は露地栽培で10t程度、通常のハウス栽培で20〜30t程度であるのに対し、この最先端の栽培方法では年間70tの収穫が期待できる。農業分野は今後さらに発展が期待できる。北杜市に集積している企業農業とコンソーシアムを設立、山梨版フードバレーを構築し新しい農業を目指していきたい。」と抱負を語る藤巻社長。その目は活き活きと輝いていました。

新人37人がいよいよ実務に!

平成27年度の新採用者(入組者)37人が、3ヶ月間の研修を終了し、この7月1日から各営業店等で本格的に働きはじめました。皆様よろしくお願ひいたします。(写真は4月1日の入組式の模様です。)



協定締結に関する理事長コメント

当組合は、地域に根差した信用組合として、地域社会の発展なくして私どもが発展することはない。「地方創生」は私どもの重要な経営課題と認識しております。この一環として、今般、県との「定住人口の確保に関する協定」の締結に至りましたが、今後は、地域のために「何ができるのか」また「何をしなければならぬのか」を真剣に考え、県はじめ市町村との連携をなお一層強化し、地域に密着した金融機関として、山梨の「まち・ひと・しごとづくり」に、できる限りの協力や貢献を積極的に行ってまいります決意であります。

山梨県民信用組合
理事長 廣瀬正文

山梨県と山梨県信用組合協会とは、本県の定住人口確保に連携協力して取り組み地域活性化を図るため、「定住人口確保」に関する協定を締結しました。6月16日に県庁で開催された締結式には、協会から細田幸次会長及び廣瀬正文副会長(当組合理事長)が出席。後藤斎知事と細田会長が協定書に署名しました。この協定に基づく連携・協力は、本県への移住者及び定住者に対する定住支援、都市住民に対する本県内への移住促進が主な内容であり、当組合では今後、県内39営業店舗への「移住・定住相談窓口」の設置や、県が東京に開設する「やまなし暮らし支援センター」との連携・協力などに積極的に取り組んでいく方針です。



協定締結式(左から、廣瀬理事長、細田会長、後藤知事)

山梨県と「定住人口確保に関する協定」を締結

イメージキャラクターの契約満了により
表示を外しました。

山梨県民信用組合では、平成27年度「しんくみの集い」事業として、「伝説のカリスマ販売員」茂木久美子氏をお招きして、公開セミナーを開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
(お申込み用紙は各営業店にごございますので、お気軽にお申し付けください。)

【主催】山梨県民信用組合・山梨県信用組合協会
【後援】山梨県中小企業団体中央会、甲府商工会議所、山梨県商工会連合会
公益財団法人やまなし産業支援機構、公益社団法人やまなし観光推進機構

地方創生と中小企業向け 補助金等説明会を開催

山梨県民信用組合では、経済産業省関東経済産業局のご支援のもと、4月9日に山梨県立中小企業人材開発センターにおいて、県内中小企業の皆様向けに、「地方創生」や中小企業向け補助金等の説明会を開催しました。

説明会では、まず同局地域経済部の山口栄二次長様から「人口減少」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」についてご講演をいただき、同局の担当者様から補助金等の解説をしていただきました。さらに説明会開催に協力していただいた山梨県中小企業団体中央会、甲府商工会議所及び山梨県商工会連合会の各担当者様からも、各団体の支援事業について説明していただきました。



「ご講演いただいた山口次長様」

ご参加の企業経営者等80人の皆様は真剣に聞き入っており、終了後には「事業の趣旨や狙いが分かりやすかった。」「人口減少の実態や地方創生のお話は、改めて今後の経営を考える良いきっかけとなった。」「などの評価をいただき、皆様のご支援により中身の濃い充実した説明会を開催することができました。

Yamanashi Kenmin Shinkumi

けんみん信組

ソーラー住宅ローン

太陽光発電による発電収入を返済原資に加算
実質負担率軽減ローン

ご融資金額	50万円以上 1億円以内 <small>(原則10万円単位)</small>
ご融資期間	35年以内(新築) <small>※中古物件については、35年から築後経過年数を引いた年数</small>
金利	当組合所定の金利

(平成27年10月1日現在)

支店紹介 須玉支店



当店は、昭和35年12月に葦崎信用組合須玉支店として開設されました。その後三度の合併や移転さらに明野支店との統合を経て、山梨県民信用組合須玉支店として現在に至っています。

当店の営業エリアは、北杜市須玉町及び明野町の全域と北杜市高根町の二部となっています。須玉町の北部には、明治・大正・昭和のそれぞれの時代の校舎が復元された『三代校舎ふれあいの里』があります。明治8年に建設された明治校舎(旧津金学校)は須玉歴史資料館とカフェとして、また大正校舎は農業体験をはじめ陶芸・工芸・ドライフラワー作り等の体験教室として、昭和校舎は『おいしい学校』として地元で採れた野菜を取り入れたイタリアン・和食・パンの販売やハーブ風呂の楽しめる施設となっています。

須玉町の東部を奥に進むと野生の猿や鹿の親子に遭遇することもめずらしくありません。金峰山と日本百名山に選定されている瑞牆山の山あいの原生林にかまれたところに「増富ラジウム温泉」があります。豊富なラジウム含有量を誇り、古くは川中島合戦の負傷兵や甲州金山の鉱夫たちの湯治場として利用され、武田信玄公ゆかりの隠し湯としても知られています。

また、明野町は日照時間日本一の太陽の里として知られており、太陽をたっぷり浴びて育った60万本のひまわりが咲き誇ります。「明野サンフラワーフェス」は、7月25日から8月23日に開催されますので、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

須玉支店は男性5名、女性4名、計9名の店舗です。ホームセンターやスーパーマーケットに隣接していますので、買い物兼ねて来店されるお客様が多くいらっしゃいます。これからも親しみやすく愛される支店をめざして笑顔で皆様をお迎えいたします。